

# 令和7年産 麦作情報 第1号

宮城県亘理農業改良普及センター

令和6年12月23日発行

電話 0223(34)1141 FAX 0223(34)1143

ホームページ <https://www.pref.miyagi.jp/site/wrnk/>

## 1 麦生育状況

地区名	品種	播種時期		12月15日調査 (12/18実施)	
				草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)
名取市 本郷	シュンライ	11月2日	本年値	9.2	310
			平年比	106%	114%
名取市 下増田	シュンライ	10月23日	本年値	9.5	624
			平年比	101%	110%
名取市 愛島	シュンライ	10月15日	本年値	15.9	688
			平年比	184%	182%
平均			本年値	11.7	556
			平年比	129%	133%

・10月、11月と気温が高い日が続いたこと、また、10月中旬以降日照時間も多かったことから、分けつは良好で、概ね目標㎡当たり莖数(越冬前(年内)莖数400~500本/㎡)を確保しています。

※平年比は令和2年~6年産の平均値との比較

※名取市愛島は令和5年産、6年産の平均値との比較

## 2 今後の栽培管理

### 1) 麦踏み(踏圧)

- ・効果：根張りが良くなる。根の浮き上がり防止。分けつ増加。徒長防止など
- ・時期：積雪前に麦踏みを1~2回実施しましょう。

茎立ち(主茎の稈長が2cm程度)前までに実施、晩限は3月上旬頃です。

- ・注意点：ほ場が湿った状態で行うと土が硬く締まり、根の伸長阻害や排水性悪化の原因となります。ほ場が乾いているときに実施しましょう。

### 2) 追肥<大麦>

- ・根の浮き上がり防止、分けつ増加、徒長防止から追肥後は、麦踏みを行いましょう。

追肥の種類 (生育ステージ)	幼穂形成期 (幼穂長2~3mm) (3月中旬~4月上旬)	減数分裂期 (幼穂長20~30mm) (4月中旬~4月下旬)	穂揃期 (8~9割が出穂)
目的	有効茎歩合の増加 (穂数の確保)	一穂粒数の増加 登熟の向上	-
10月中旬に 播種したほ場 (生育量が多い)	窒素成分 2~2.5kg/10a (硫安 5~10kg/10a)	窒素成分 2~2.5kg/10a (硫安 5~10kg/10a)	硬質麦 防止のため 実施しない